

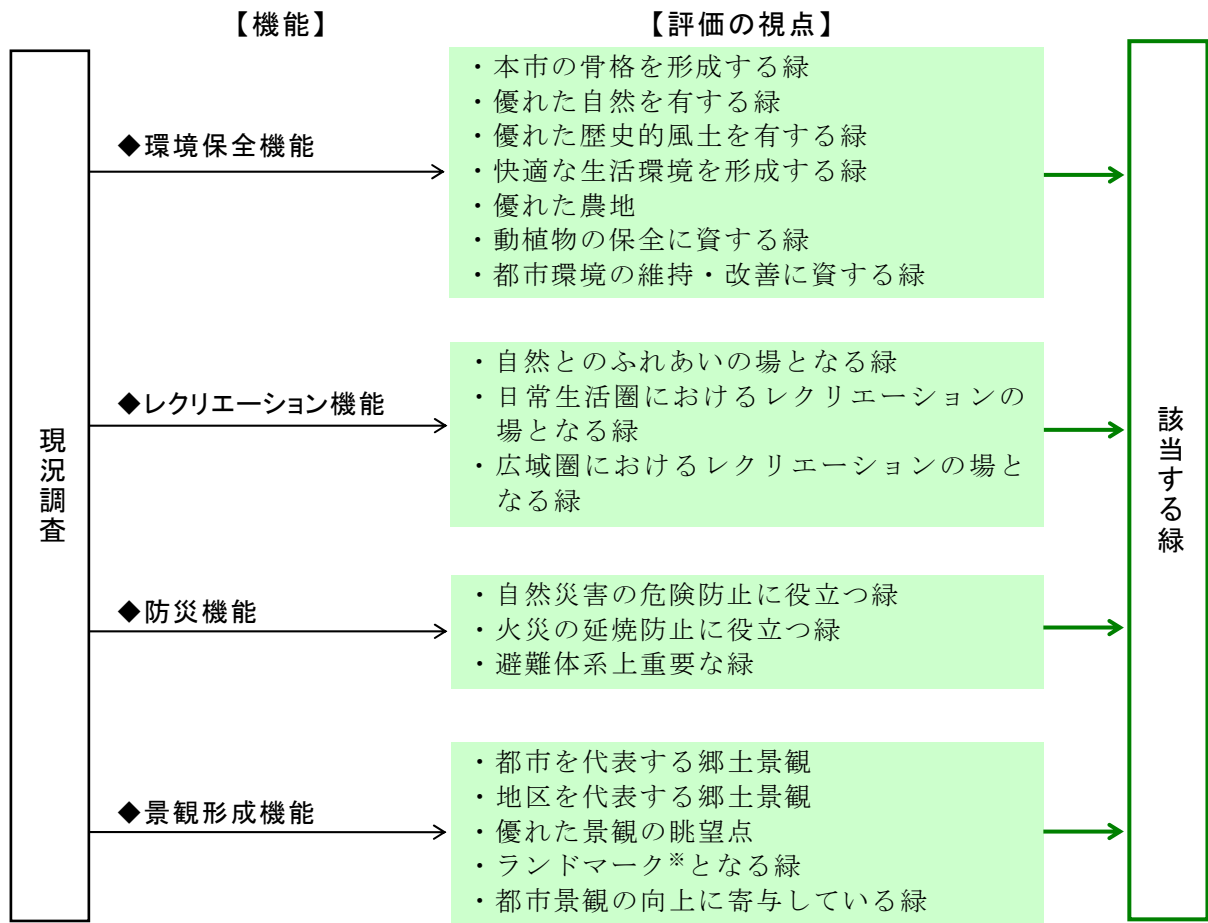
4.現況の緑の評価及び課題の整理

4-1 現況の緑の評価

4-1-1 4機能での評価

緑は多様な機能を有していますが、大別すると「環境保全」、「レクリエーション」、「防災」及び「景観形成」の4機能に分けることができます。

ここでは、現況の緑をこの4機能により評価し、市域内の該当する緑を明らかにします。



緑の評価フロー

※ ランドマーク：都市や地域の象徴あるいは目印となるもののこと。一般には周辺から見ることでできる高さがあるもの。

4-1-2 環境保全機能の評価

(1) 本市の骨格を形成する緑

- ・愛知県広域緑地計画基本方針において骨格を形成する緑地（大河川）として位置づけられている木曾川は、国内有数の一級河川であり、本市の骨格を形成する重要な緑として評価できます。
- ・市街化調整区域の一団の農地は、本市の緑の中でも最も多く占めており、市街地を取り囲む緑の骨格として評価できます。



木曾川

(2) 優れた自然を有する緑

- ・木曾川沿いの草地や樹林地は、まとまった樹林地が少ない本市のなかで、規模が大きく重要な自然環境であると評価できます。



木曾川堤の桜並木

(3) 優れた歴史的風土を有する緑

- ・昭和2年に国の名勝・天然記念物に指定された木曾川堤の桜並木は、本市の誇るべき緑として評価できます。
- ・豪族の墓として言い伝えのある二子山古墳、織田信長の室であった吉乃の墓がある久昌寺、戦国時代の砦の面影が残る宮後八幡社は、史跡と一体となった緑として評価できます。

(4) 快適な生活環境を形成する緑

- ・なつめ公園や高屋西町公園などの市内各所に配置されている都市公園、街路樹、市街地の身近な緑となっている生産緑地地区、古知野神社や北野天神社などの市街地の社寺林、青木川沿いの草地や樹木は、市街地の生活環境にうるおいを与える緑として評価できます。



青木川

(5) 優れた農地

- ・伝統野菜のねぎを始め大根などの地域の主要農産物の生産を担っている畑や市域南部に広がる一団の水田は、優れた農地として評価できます。

(6) 動植物の保全に資する緑

- ・木曾川沿いの草地や樹林地は、水辺と一体となったまとまった緑であり動植物の生育、生息環境の重要な場所として評価できます。

(7) 都市環境の維持・改善に資する緑

- ・市街地に位置する都市公園は、緑の少ない市街地において都市の高温化を緩和する緑であり、特に中央公園は、樹林や芝地のある緑豊かな場所であり、重要な緑として評価できます。
- ・街路樹や工場外周の植樹帯は、防塵や騒音などの公害を緩和する緑として評価できます。



街路樹

環境保全機能の評価の視点と該当する緑

評価の視点	該当する緑
本市の骨格を形成する緑	木曾川、市街化調整区域の一団の農地
優れた自然を有する緑	木曾川沿いの草地や樹林地
優れた歴史的風土を有する緑	木曾川堤の桜並木、二子山古墳、久昌寺、宮後八幡社など
快適な生活環境を形成する緑	都市公園、街路樹、生産緑地地区、市街地の社寺林、青木川沿いの草地や樹木など
優れた農地	市街化調整区域の一団の農地
動植物の保全に資する緑	木曾川沿いの草地や樹林地
都市環境の維持・改善に資する緑	中央公園などの都市公園、街路樹や工場外周の植樹帯など

4-1-3 レクリエーション機能の評価

(1) 自然とのふれあいの場となる緑

- ・市民花壇や様々なテーマを持った庭のあるフラワーパーク江南は、花と緑とのふれあいの場として評価できます。
- ・しみず公園は、水生生物や植物の観察ができるビオトープがあり、身近に自然とのふれあいができる場として評価できます。
- ・遊休農地を活用した市民菜園は、農体験を通じた自然とのふれあいの場として評価できます。



しみず公園

(2) 日常生活圏におけるレクリエーションの場となる緑

- ・江南緑地公園や市民グラウンド、小中学校のグラウンドは、身近にスポーツなどのレクリエーションが楽しめる場として評価できます。
- ・運動公園である蘇南公園は、野球やソフトボール、サッカー、ローラースケートなどのレクリエーションが楽しめる場として評価できます。
- ・近隣公園である中央公園、街区公園である高屋後山公園などは、日常的なレクリエーションの場として評価できます。
- ・公園と比較して規模の小さな児童遊園、遊園地は、小さな子どもたちの身近な遊び場として評価できます。



蘇南公園



布袋児童遊園

(3) 広域圏におけるレクリエーションの場となる緑

- ・江南藤まつりは、市の最も有名なイベントとなっており、期間中は多くの観光客が訪れるため、開催地となる曼陀羅寺公園は観光レクリエーションの場として評価できます。
- ・国営木曾三川公園の拠点施設であるフラワーパーク江南や江南市民まつりなどの多くのイベントが開催されるすいとぴあ江南は、岐阜県を含めた周辺市町からの来客者も多くある、広域的なレクリエーションの場として評価できます。
- ・五条川沿いの尾北自然歩道、木曾川沿いの遊歩道・サイクリングロードは、隣接する市町をつなぐ広域的なレクリエーションの場として評価できます。



フラワーパーク江南



遊歩道・サイクリングロード

レクリエーション機能の評価の視点と該当する緑

評価の視点	該当する緑
自然とのふれあいの場となる緑	フラワーパーク江南、しみず公園、市民菜園
日常生活圏におけるレクリエーションの場となる緑	江南緑地公園、運動公園（蘇南公園）、近隣公園（中央公園）、街区公園、児童遊園、遊園地、市民グラウンド、小中学校のグラウンドなど
広域圏におけるレクリエーションの場となる緑	曼陀羅寺公園（藤まつり）、フラワーパーク江南、すいとぴあ江南、尾北自然歩道、遊歩道・サイクリングロード

4-1-4 防災機能の評価

(1) 自然災害の危険防止に資する緑

- ・生産緑地地区及び市街化調整区域に広がる畑は、雨水を地下に浸透させ、河川や水路に流出する流量を抑え、洪水を緩和する緑として評価できます。
- ・市南部に多い水田は、雨水を一時貯留する機能があるため、洪水防止に役立つ緑として評価できます。



農地（市南部の水田）

(2) 火災の延焼防止に資する緑

- ・市街地の社寺林、都市公園、児童遊園、遊園地、街路樹は火災時の延焼を防止する緑として評価できます。

(3) 避難体系上重要な緑

- ・蘇南公園、江南緑地公園、中央公園及び小中学校は、地震災害時の避難場所として指定されているほか、古知野中児童遊園など身近な児童遊園や曼陀羅寺公園は避難地として指定されており、避難体系上重要な緑となっています。
- ・緑化された道路や河川沿いの緑道などは、避難路としての機能を有している緑として評価できます。



青木川

防災機能の評価の視点と該当する緑

評価の視点	該当する緑
自然災害の危険防止に資する緑	市街地及び市街地周辺の農地（田・畑）
火災の延焼防止に資する緑	市街地の社寺林、都市公園、児童遊園、遊園地、街路樹
避難体系上重要な緑	避難場所や避難地に指定されている公園や児童遊園や小中学校、避難路の機能を有する緑化された道路や河川沿いの緑道

4-1-5 景観形成機能の評価

(1) 本市を代表する郷土景観

- ・木曾川、木曾川堤の桜並木、曼陀羅寺公園の藤、五条川の桜並木、音楽寺のあじさいは本市を代表する重要な郷土景観として評価できます。

(2) 地区を代表する郷土景観

- ・川島神社、熱田社、北野天神社、若宮八幡社など市内各所で見られる緑豊かな社寺林、市街化調整区域に広がる水田や畑の景観は、地区を代表する重要な郷土景観として評価できます。



北野天神社

(3) 優れた景観の眺望点

- ・すいとぴあ江南のスカイルーム、フラワーパーク江南のクリスタルフラワー屋上や木曾川の堤防は、木曾川沿いの豊かな緑だけでなく尾張平野を取り囲む山々の景色を眺める優れた眺望点として評価できます。



フラワーパーク江南（クリスタルフラワー）

(4) ランドマークとなる緑

- ・すいとぴあ江南は、建物の形状や高さから本市の代表的なランドマークであると評価できます。
- ・規模の大きな樹林地や大木を有する緑豊かな社寺林は、地区の身近なランドマークとして評価できます。



すいとぴあ江南

(5) 都市景観の向上に寄与している緑

- ・市街地の都市公園、公共公益施設の植栽地、街路樹のほか、社寺林、住宅地の手入れされた庭などは、都市景観の向上に寄与する緑として評価できます。

景観形成機能の評価の視点と該当する緑

評価の視点	該当する緑
本市を代表する郷土景観	木曽川、木曽川堤の桜並木、曼陀羅寺公園の藤、五条川の桜並木、音楽寺のあじさい
地区を代表する郷土景観	緑豊かな社寺林、市街化調整区域に広がる水田や畑など
優れた景観の眺望点	すいとぴあ江南のスカイルーム、フラワーパーク江南のクリスタルフラワー屋上、木曽川の堤防
ランドマークとなる緑	すいとぴあ江南、規模の大きな樹林地や大木を有する社寺林
都市景観の向上に寄与している緑	都市公園、公共公益施設の植栽地、街路樹、社寺林、手入れされた庭など



音楽寺のあじさい



すいとぴあ江南スカイルームからの眺望



社寺林（久昌寺）



都市公園（中央公園）

4-2 目標達成の検証

4-2-1 緑地の確保目標水準

平成7年に設定した目標水準と現状を比較すると、将来市街地面積に対する緑地の割合 A の達成率は 81.7%、都市計画区域面積に対する緑地の割合 B に対する達成率は 96.2%となっています。

緑地の確保目標水準

項目	平成7年に設定した目標水準 (目標年次平成22年)	平成22年時点	達成率
市街地面積に対する緑地の割合 A	99.1ha 8.2%	49.44ha 6.7% (50.79ha 6.9%)	81.7%
都市計画区域面積に対する緑地の割合 B	705.6ha 23.4%	679.60ha 22.5% (852.41ha 28.3%)	96.2%

注) 平成7年に設定した、目標水準と同じ条件で比較するため、平成22年時点の面積には河川区域を含まない値と、含んだ値を括弧内に表示している。

4-2-2 都市公園などの施設として整備すべき緑地の目標水準

整備すべき緑地の目標水準の達成率は、都市公園が 23%、都市公園及び公共施設緑地が 38%となっています。

また、平成22年時点の一人当たりの都市公園面積は 3.47 m²/人で平成21年3月末現在の愛知県平均の 7.16 m²/人、全国平均の 9.53 m²/人に比べ低い状況となっています。都市公園及び公共施設緑地を合わせた整備水準も 6.86 m²/人と低い状況です。

都市公園などの施設として整備すべき緑地の目標水準

項目	平成7年に設定した目標水準 (目標年次平成22年)	平成22年時点	達成率
都市公園	194.3ha ÷ 126,500人 15.36 m ² /人	35.3ha ÷ 101,857人 3.47 m ² /人	23%
都市公園及び公共施設緑地	228.9ha ÷ 126,500人 18.09 m ² /人	69.9ha ÷ 101,857人 6.86 m ² /人	38%

資料：平成22年時点の人口は4月1日時点の住民基本台帳人口＋外国人登録者数

平成21年3月末現在の一人当たりの都市公園面積
愛知県平均 7.16 m²/人
全国平均 9.53 m²/人

4-2-3 緑の目標量の比較

平成7年に設定した目標水準と現状を比較すると、都市公園は目標箇所数の120箇所に対し、現状は16箇所で達成率は13.3%、面積目標の194.3haに対し、現状は35.30haで達成率は18.2%です。

将来人口、将来市街化区域の設定を踏まえた目標値の見直しが必要です。

緑の目標量の比較（平成7年設定時と現状の比較）

種 別				平成7年に設定した目標水準 (目標年次平成22年)		平成22年時点		達成率(%)	
				箇所	面積 (ha)	箇所	面積 (ha)	箇所	面積
施設 緑地	都市 公園	基 幹 公園	街区公園	91	23.1	11	2.21	12.1	9.6
			住区基幹公園	10	23.1	1	3.31	10.0	14.3
			近隣公園	4	16.7	—	—	—	—
		都市基幹公園	地区公園	1	22.4	—	—	—	—
			総合公園	1	12.9	1	11.25	100.0	87.2
	基幹公園 計			107	98.2	13	16.77	12.1	17.1
	都市緑地			8	1.3	2	9.13	25.0	702.3
	緑道			4	21.0	—	—	—	—
	国の設置によるもの			1	73.8	1	9.40	100.0	12.7
	都市公園 計			120	194.3	16	35.30	13.3	18.2
	公共施設緑地			53	34.6	78	34.60	147.2	100.0
民間施設緑地			87	12.1	128	29.09	147.1	240.4	
施設緑地 計			260	241.0	222	98.99	85.4	41.1	
地域 制 緑地	生産緑地地区			172	14.8	160	15.40	93.0	104.1
	その他法によるもの			—	435.9	—	559.00	—	128.2
	法によるもの 計			172	450.7	160	574.40	93.0	127.4
	条例によるもの			109	21.2	91	13.86	83.5	65.4
	小 計			281	471.9	251	588.26	89.3	124.7
	地域制緑地の重複			—	—	—	—	—	—
地域制緑地 計			281	471.9	251	588.26	89.3	124.7	
施設・地域制緑地の重複			▲48	▲7.3	—	▲7.65	—	—	
緑地 総計			493	705.6	473	679.60	95.9	96.3	

注1) 民間施設緑地については対象とする施設が異なっている。

注2) 平成7年に設定した目標水準と同じ条件で比較するため、河川区域を含まない数値とする。

4-3 課題の整理

4-3-1 現況の整理

(1) 上位計画・関連計画での位置づけ

上位計画・関連計画において緑に関する位置づけを、下記のとおり整理します。

◆上位計画	◆関連計画
○江南市戦略計画	○江南市環境基本計画
○江南市都市計画マスタープラン	○江南市地域防災計画
○愛知県都市計画区域マスタープラン	
○愛知県広域緑地計画基本方針	

位置づけ
・地域で公園を維持管理する体制づくりや人材育成の推進
・木曾川の良好な自然環境や自然景観の保全と活用
・中小河川の親水化や水辺を活かした景観形成
・地域的なバランスのとれた公園整備と市民一人当りの公園面積の増加
・道路・河川・公共施設の緑化と市民や企業などとの協働による民有地緑化の推進
・フラワーパーク江南の整備を国に働きかけるなど、国営木曾三川公園の機能の充実
・スポーツやレクリエーションの場の創出
・避難場所や避難地となる都市公園などの防災機能の整備と充実
・都市公園、社寺林、河川などをつなぐ水と緑のネットワークの形成
・公園施設のユニバーサルデザイン・バリアフリー化の推進
・花いっぱい運動、花いっぱいコンクールなどによる市民の緑化意識の向上
・ふるさと江南歴史散策道の沿道や史跡の周辺における地域住民との協働による緑化推進

(2) 市民アンケート調査からみる市民意向

市民アンケート調査の結果より、本市の緑に対する市民意向を、下記のとおり整理します。

市民意向
・木曾川やその周辺にあるすいとびあ江南、フラワーパーク江南などが本市の緑を特徴づけている。曼陀羅寺を始めとする社寺林や五条川も地域の緑として親しまれている。
・まち中で緑が少なく感じられており、まちかどの緑化が必要とされている。
・市全体で、緑がやや減少したと感じられており、公園整備のほか、河川沿いの自然の保全が望まれている。
・ウォーキングを楽しんだり木や花が観賞できる市民の憩いの場の整備が求められている。
・公園整備では、大きい公園よりも徒歩や自転車で行ける距離にある身近な公園が求められている。
・自宅の庭やベランダの緑化に、花の種や苗の配布は有効な手段となっている。
・市民協働による公園や広場の維持管理に対して、行政の支援が望まれている。
・市内各地に点在する社寺林は、地域の手によって維持管理され守られている。

(3) 4 機能での評価からの本市の緑の特徴

環境保全機能、レクリエーション機能、防災機能、景観形成機能の4機能を総合し、江南市の緑の特徴として下記のとおり整理します。

◆ 4 機能での評価

○環境保全機能 ○レクリエーション機能 ○防災機能 ○景観形成機能

特 徴
・木曾川、木曾川沿いの草地や樹林地などは、優れた自然環境を有し良好な景観である。
・市街地を取り囲んでいる農地は、本市の環境面や防災面、景観面へ寄与しているが、減少傾向にある。
・まち中の公共公益施設や道路での緑化は進んでいるとはいえない。
・まち中を流れる河川などは快適な生活環境形成や景観形成に寄与しているが、有効に活用されているとはいえない。
・まち中の生産緑地地区や住まいの近くにある農地は、貴重な緑となっているが、減少傾向にある。
・公園や遊園地、街路樹などは、災害時の避難地・避難路や火災の延焼防止として機能する緑であるが、十分とはいえない。
・二子山古墳や久昌寺などの史跡と一体となった緑が市内に残されている。
・日常生活圏でのレクリエーションの場として都市公園や遊園地、児童遊園などはあるが、十分な数とはいえない。
・フラワーパーク江南、すいとぴあ江南、蘇南公園は遊歩道・サイクリングロード沿いに位置し互いにつながっており、市内外の利用者が多い。
・木曾川堤・五条川の桜並木や曼陀羅寺公園の藤などの花の名所は、先人により育まれた緑である。

4-3-2 課題の整理

木曾川に育まれた豊かな自然と過去からの人々の営みで生まれ、守られてきた緑が、本市の緑を特徴づけています。しかしながら、まち中の緑など、暮らしの中で感じることでできる緑は十分とはいえない状況です。また、都市の防災性やゆとりの創出など、今後の市街地形成や都市の発展に欠かせない緑やオープンスペースへの期待も高くなっています。

こうしたことから、本市の緑づくりを進めるため、以下の3つの視点から緑の課題を整理します。

- 本市の特徴的な緑となっている優れた自然環境や先人から受け継いだ緑の課題
⇒ (1) 『特徴的な緑』への対応
- まち中を流れる河川、公園、街路樹、庭木など、暮らしと密接している緑の課題
⇒ (2) 『身近にある緑』への対応
- 快適で安心・安全な市街地形成など、健全な都市づくりを支える緑の課題
⇒ (3) 『機能的な緑』への対応

(1) 『特徴的な緑』への対応

1) 木曾川沿いの自然環境、自然景観の保全が求められています。

木曾川沿いの緑は、豊かな自然環境や自然景観を形成し、多様な生物の生息地であるとともに、国の名勝・天然記念物となっている木曾川堤の桜並木を有しており、保全が求められています。

2) 国営木曾三川公園の整備の促進が求められています。

国営木曾三川公園については、フラワーパーク江南の整備を国に働きかけるとともに、利便性の向上を図ることなどが求められています。

3) 木曾川沿いの広域的なレクリエーションの場の一体的な活用が求められています。

すいとぴあ江南、フラワーパーク江南、蘇南公園は木曾川沿いの近隣市町をつなぐ遊歩道・サイクリングロード沿いに位置しており、広域的なレクリエーションゾーンの拠点として一体的な活用が求められています。

4) 花の名所の連携が求められています。

木曾川堤・五条川の桜並木、曼陀羅寺公園の藤、音楽寺のあじさいなどの市を特徴づけている花の名所を、イベント時などに互いにつながり組みが求められています。

5) 地域で守ってきた社寺林の保全が求められています。

市内に数多く点在する社寺林は、地域社会に密着した緑として、その多くは地域住民の手によって守られてきました。市民アンケート調査で住まい周辺の緑が減少したと感じる市民が多いなか、身近なまとまった緑として、今後も積極的な保全が求められています。

6) 藤まつりなどの市の伝統や文化に関わる緑の保全が求められています。

曼陀羅寺公園で行われる藤まつり、音楽寺のあじさい祭り、木曾川堤の桜並木など、本市の歴史や文化に関わる緑を保全し、将来に継承していくことが求められています。

また、市内の公園に多くある藤棚は、適正な管理を市民協働により進め、まちの誇りと個性が感じられる景観をつくる緑として保全が求められています。

7) 史跡と一体となった歴史的な風土を有する緑の保全が求められています。

豪族の墓として言い伝えのある二子山古墳、織田信長の室であった吉乃の墓がある久昌寺などの樹林は、史跡と一体となった歴史的風土を有する緑として保全が求められています。

(2) 『身近にある緑』への対応**1) 河川沿いや社寺林のうるおいの場としての活用が求められています。**

五条川沿いの桜並木のある尾北自然歩道や青木川などの河川沿いに残された緑は、水と緑のうるおいが感じられる連続した空間となっており、人々が散策や健康づくりなどに利用できる親水空間としての活用が求められています。

また、市内に数多く点在する社寺林では、清掃などの維持管理を通じて地域のコミュニケーションの場となるほか、遊び場として利用されていることから、今後も地域に根ざした憩いの場としての活用が求められています。

2) 住宅地周辺に点在する農地の活用が求められています。

まち中やその周辺には農地が数多く点在しており、市民が普段目にするごく身近な緑となっています。これらの農地は、営農のほか地域の景観向上に寄与するための活用が求められています。

3) 既存の公園の活用が求められています。

既存の公園は、利用者の安全やニーズに配慮した施設の修繕や更新に努め、今後の超高齢社会においても、より多くの人が安全で楽しく利用できる場として活用することが求められています。

4) 民有地の緑化が求められています。

まち中には公園などが少なく、特に中心部においては、新たな公園などの用地確保が困難であり、まとまった緑を増やすことは難しい状況です。

このような状況のなか、うるおいのある生活環境を形成するためには、自宅や職場など、市民や企業などとの協働で身近な日常生活の場に、花や緑にふれあえる環境づくりが求められています。

5) 市民協働による身近な緑の維持管理が求められています。

道路の街路樹は、緑の少ない市街地にあって四季の変化を感じる上でも貴重な要素です。このため、地域の協力による管理を含め、道路を身近なうるおいのある空間として活かすことが求められています。

また、公園においても地域で維持管理する体制づくりと人材育成の推進が求められています。

(3) 『機能的な緑』への対応**1) 地域バランスのとれた身近な都市公園の整備が求められています。**

本市の都市公園の市民一人当たり面積は県や国の平均を大きく下回っています。加えて、公園などの整備状況に地域格差があるとともに、身近な公園整備を望む声もあり、その改善に向けて地域バランスのとれた身近な都市公園などの整備と市民一人当たりの公園面積の増加が求められています。

2) 公園などの防災機能の強化が求められています。

公園などについては、多くが避難所に指定されており、備蓄倉庫などの防災施設の整備とあわせ、地震時の火災などにおいて避難者の安全確保や延焼を防止する機能の充実が求められています。

3) 連続性のある緑の空間確保が求められています。

市民アンケート調査では、ウォーキングを楽しんだり木や花が観賞できる場に対するニーズが高く、青木川などの市内の中小河川沿いや、ふるさと江南歴史散策道などで散策などが楽しめる連続性のある緑の空間を確保することが求められています。

また、河川沿いの緑道や街路樹を伴う道路は避難路としての防災機能面などからも連続した空間が求められています。

4) 人が多く集まる場所の緑化が求められています。

江南駅など人が多く集まる場所は、人々が緑の多さや質の高さやうるおいを感じられるよう、街路樹による緑化とあわせ、駅前へのフラワーポット設置など、公共空間を有効活用し、緑化を推進することが求められています。

5) 市街地周辺の農地の保全が求められています。

農地は、環境保全機能、遊水機能などの防災機能、田園景観を構成する機能など様々な緑の機能を有しています。市街地を取り囲むように位置している一団の農地については、まち中の環境維持のためにも保全と営農の維持が求められています。